

家具転対策「3つのステップ」

(1) 集中収納

納戸やクローゼット、据え付け収納家具への集中収納により、努めて生活空間に家具類を置かないようにしましょう。また、棚などの家具に物を収納する場合は、重いものを下に収納し、重心を低くすることで倒れにくくしましょう（図2、図3）。

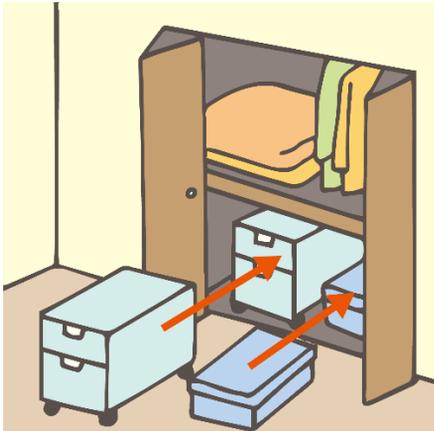


図2 集中収納

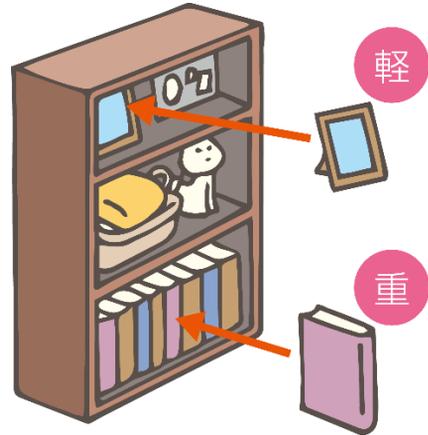


図3 収納方法

(2) 家具類のレイアウトの工夫

避難通路、出入口周辺に転倒・移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。倒れた家具類により、ドアが開かなくなったり、つまずいてケガをしたり、避難の妨げになることがあります。また、家具類の位置や方向に注意することでケガの危険を減らせます（図4）。



図4 家具の配置・家具の位置

(3) 対策器具の設置

家具類を置く場合は、家具転倒対策器具を設置しましょう。対策器具は、家具類の大きさや形に合わせて、それぞれに適した器具を設置しましょう（図5）。

対策器具の効果は、L型金具のようにネジやボルトで家具類と壁面を固定するタイプの効果が高くなっています。また、ポール式とストッパー式を併用することで、L型金具と同等の効果を得ることができます（図6）。

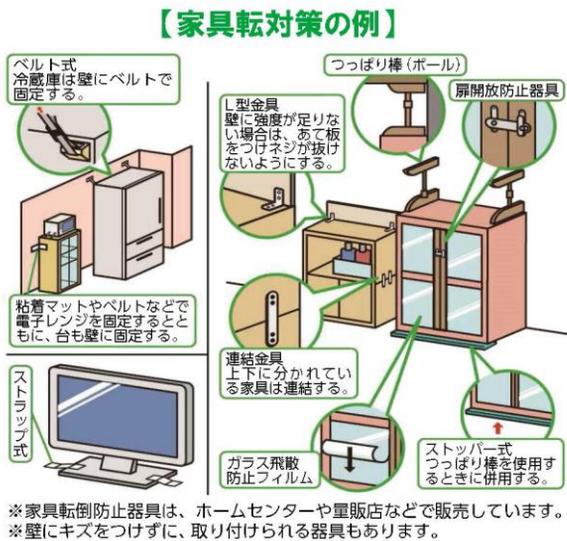


図5 対策器具の設置例

使用条件	器具の効果 ← 小 → 大				
単独使用	ストッパー式 	ポール式 	L型金具 (スライド式) ベルト式 チェーン式 	L型金具 (上向け取付け) プレート式 	L型金具 (下向け取付け)
組み合わせ使用	家具と天井に十分な強度が必要		家具、壁面や器具に十分な強度が必要		
			ポール式 + マット式 	ポール式 + ストッパー式 	

図6 対策器具の効果

家具転倒対策の必要性や実施方法をまとめた『家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック』を東京消防庁のホームページに掲載しています。ぜひご活用ください。



東京消防庁のホームページ